

《専門教育科目 専門応用科目》

科目名	小中連携教育研究				
担当者氏名	太田 洋子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	4年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 専門応用-4 発達の深い理解 ◎ 専門応用-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

小学校や中学校の入学後、校種間の段差により生活面や学習面で子どもたちがつまづく状況がある。互いの教員が異校種の実践を学び理解することで、子どもたちの段差は低くなるはずである。実際の事例をもとに、ケースメソッドやグループワーク、思考ツール等を活用した実践的な幼小連携や小中連携について学ぶ。

《授業の到達目標》

実際の事例や学習指導要領、教科書等の資料をもとに、小中連携の効果や課題について理解し考察する。

また、コミュニティ・スクール等を活用した地域や保護者をも着込んだ小中連携についても学ぶ。

最終的に、自身が教員となったときに、幼小連携や小中連携を意識した授業づくりや連携プログラムを作成できる人材育成を目指す。

《成績評価の方法》

平常点（授業時の課題＋発表等） 40％
 最終的な課題（レポート等） 60％

《テキスト》

必要に応じて配布

《参考図書》

- ・小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 幼稚園教育要領（文部科学省）
- ・小学校算数教科書（啓林館）中学校数学教科書（啓林館）
- ・小学校1年生国語教科書（光村）生活科教科書（啓林館）
- ・全国学力・学習状況調査問題及びデータ他、授業中に適宜紹介

《授業時間外学習》

予習・復習の内容等は授業時に適宜紹介する。

《備考（教員経験の有無）》

この教科は中学校の教育経験に基づき構成しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、参考資料、評価の方法等を説明するとともに、小中学校の現状について認識する。
2	小中連携の考察①	教員のライフコースを研究し、小学校教諭、中学校教諭の共通点や違いに着目するとともに、小中連携に係る文部科学省の資料を読み解く。
3	小中連携の考察②	不登校のデータをもとに、小学校と中学校の段差（ギャップ）についてブレインストーミング&k J法を活用し考察する。
4	小中連携の実際①	NIEについて学ぶとともに、小中連携に係る関連文献や新聞記事を分担して調べ報告・議論する。
5	小中連携の実際②	小学校における教科担任制について、ディベートによるその効果と課題について議論する。
6	学級づくりと小中連携①	学級がうまくいかない事例をケースメソッドの手法を用いて読み解き、小中連携の視点から考察する。
7	学級づくりと小中連携②	学級集団アセスメントの理論と活用について演習をもとに理解を深める。
8	幼小連携教育の現状	幼児教育、小学校教育それぞれの特徴を理解しながら、幼児教育から小学校へのなめらかな接続についてアプローチカリキュラムの視点から考察する。
9	保護者対応について	小中学校の初任者へのアンケート結果をもとに、小中における保護者対応の違いや連携した対応等について学ぶ。
10	算数・数学の接続研究①	幼児期から小学校、中学校での学びの中の数の広がり、子どものつまづきのポイントについて考察する。
11	算数・数学の接続研究②	小学校及び中学校の教科書を比較し、関数分野の系統性を意識した小学校での教材開発や指導案作成を行う。
12	全国学力学習状況調査から読み解く小中連携	全国学力調査の問題を分析するとともに、学習状況調査による小中の変化について考察する。
13	コミュニティ・スクールにおける小中連携	コミュニティ・スクールの理解と、小中連携の事例を考察する。さらに企画書作成の手法について学ぶ。
14	小中連携プログラムの作成	学校現場において、小中連携や保幼小連携の担当者になったと仮定して、連携のプログラム（企画書）を作成する。また、パフォーマンス評価について知る。
15	企画書の発表とまとめ	連携プログラムの発表と振り返り